

イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年5月2日作成 (株) 新出光

【月次概況】

●第1週、週末4/6のWTI原油は、先週比5.03ドル高の80.70ドルとなりました。翌7日はグッドフライデー（聖金曜日）に伴い休場。今週に入って弱い米経済指標の発表が相次いだことから、エネルギー需要の先細りを警戒した売りが先行。相場は未明にかけ、軟調に推移した。3連休入りを控え、朝方になると徐々に買い戻しが広がり、プラス圏に浮上。石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が2日に追加減産を表明したことや、5日の米エネルギー情報局（EIA）週報で原油とガソリンが市場予想を上回る取り崩しを示したことなどが相場を支えた。

●第2週、週末4/14のWTI原油は、先週比1.82ドル高の82.52ドルとなりました。EIAは14日に発表した月報で、2023年の石油需要について前年比で日量200万バレル増の1億190万バレルと、過去最大の水準になるとの見通しを示した。一方で、EIAは石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」の減産を背景に23年の供給見通しを下方修正した。これを受けて、需給引き締め観測が強まり、原油が買われた。

●第3週、週末4/21のWTI原油は、先週比4.65ドル安の77.87ドルとなりました。外国為替市場では、堅調なユーロ圏経済指標を背景にドルが対ユーロでおおむね軟調に推移。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油買いが先行した。加えて、最近の下落基調から安値拾いの買いや限月交代に伴う持ち高調整目的の買いも若干入ったもよう。景気後退懸念や米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ継続観測の高まりによるドル高への警戒感などを背景に相場は下落していた。

●第4週、週末4/28のWTI原油は、先週比1.09ドル安の76.78ドルとなりました。米株式相場の上伸を背景に投資家のリスク回避姿勢が後退し、株式と並ぶリスク資産である株式にも買いが入った。原油相場は26日までの2日間で5%超下落した反動から、安値付近の水準で買い支えも入った。ロイター通信は28日、経営不安に陥るファースト・リパブリック銀行への対応を巡り、米連邦準備制度理事会（FRB）などの金融当局が緊急協議に入ったと報道。投資家心理の改善につながり、原油を支えたとの見方もあった。朝方発表された3月のコア個人消費支出（PCE）物価指数は前年比4.6%上昇、1～3月期の雇用コスト指数は前期比1.2%上昇と、ともに市場予想を上回る水準となった。

	4月平均	WTI原油	79.44ドル	前月比	6.07ドル	為替 1ドル	134.40円	前月差	-0.52円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	--------

日付	補助金	変動幅	変動幅
4/1~4/5	8.1	-2.5	-2.5
4/6~4/12	11.9	+4.5	+4.5
4/13~4/19	17.2	+4.5	+4.5
4/20~4/26	19.0	+1.5	+1.5
4/27~4/30	16.8	-2.5	-2.5

【単位：円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2023年1-3月C重油決定価格	86,610	91,550	86,610(メニュー) +4,940(プレミアム)
2023年4-6月C重油決定価格	88,220	90,220	88,220(メニュー) +2,000(プレミアム)	
2023年4-6月C重油決定価格			86,610(メニュー) +4,940(プレミアム)	
決定価格1-3月比				

【単位：円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油	
	2023年1-3月C重油決定価格	96,500	96,500	
2023年4-6月C重油決定価格	95,100	95,100		
2023年4-6月C重油決定価格				
決定価格1-3月比				

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格		通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/KL	ドル/bbl			
	23/3	9桁速報	72,423	85.35	134.90		508
	23/4	最終予測	69,792	83.37	133.09		-2,631
	23/5	展望	72,402	88.54	130.00		2,610
	23/6	展望	72,140	89.60	128.00		-262

【次世代エネルギー】〈CO2排出量最多の鉄鋼業界、脱炭素化への道筋〉

鉄鋼製品は自動車や家電製品など幅広い産業で欠かせない素材です。鉄鋼業界は国内の産業で最も多くの二酸化炭素（CO2）を排出しており、脱炭素化に向けた技術の開発が求められています。有効な技術の開発や設備導入のために、国内メーカーだけで2050年までに10兆円規模の投資が必要になるとの試算もあります。主要な製鉄設備である「高炉」では、鉄鉱石を石炭で還元し、酸素を取り除いて鉄を製造します。ただ還元の過程で大量のCO2が排出されることから、石炭以外で鉄鉱石を還元する技術の開発や検討が進んでいます。切り札とされるのが水素で還元する「水素製鉄」です。なかでも水素だけを使う「水素直接還元」は大幅にCO2を削減できます。水素を調達しやすいスウェーデンでは既に実用化の動きが出ており、日本勢は50年までの導入を目指しています。原料の鉄スクラップを電気で溶かす「電炉」は、高炉と比べCO2排出量が4分の1程度に抑えられる製鉄手法です。これまで電炉では自動車向けなどの高級鋼材を製造しにくいという弱点を抱えていましたが、課題解決に向け技術開発が進んでいます。国内2位のJFEスチールは22年、岡山県の製鉄所に持つ高炉のうち1基を27年にも電炉に置き換える検討に入りました。国内首位の日本製鉄も大型電炉を建設する方針ですが、電気代が高い日本では鋼材の製造コストが高くなる懸念もあります。鉄鋼メーカーはCO2排出量が実質ゼロの「グリーン鋼材」の販売に力を入れており、神戸製鋼所の鋼材は日産自動車の製品に採用されました。グリーン鋼材は通常の鋼材と品質は変わりません。環境にやさしいという付加価値をどこまで価格に反映できるかが今後の焦点となります。

出典：日経ビジネス <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC109HL0Q3A410C2000000/>

【5月価格変動要因】

●需要：シリコンバレーバンクを発端とする金融不安は、クレディ・スイスやファーストリパブリックバンクへ飛び火しつつも足元は沈静化。一方で、商業用不動産の資金繰りやクレジット市場の悪化、債務上限問題など、一層の信用収縮に繋がりがかねない火種は相応に残されており、先行き需要はなお暗い。製油所稼働率は復調してきており、ドライブシーズンに向けて原油需要の回復が意識されるSPRの買戻しは当面考えにくいものの、期待感は根強く、下値をサポート。

●供給：OPEC減産による中東産原油の供給懸念は根強いものの、先行き需要の減退に伴って需給バランスのタイト感はやや緩和。米国ではパーミアン盆地における掘削に重点が置かれ、投資が集まる一方で、2月の米原油生産は昨年12月来低水準となっており、供給増のテンポは弱い

●在庫：原油在庫は足元取り崩し傾向となっているが、メンテナンスシーズン期の在庫積み上げ分を吐き出したに過ぎず、現在は5年レンジの中央値付近。ライブシーズンにかけては取り崩しが進むものと見られるが、中東・露産原油が減産となったことで米産原油の需要も増加する見込。

●リスク資産：金融不安が一旦後退し、米株式を中心とするリスクアセットは堅調な推移を続けている。一方、クレジット市場は引き続きタイトで、かつ商業用不動産や米債務上限問題など、問題は山積。

●テクニカル：BrentはOPEC減産報道後の上昇を、4月末にかけての軟化によって窓埋め、4月初に上昇によって上87ドル-下77ドル前後のレンジに回帰したと考えれば、4/26・4/27の安値から反発し、短期的には上昇が期待されやすい。

<1ヶ月価格見通し> (単位：US/bbl)

	Brent	WTI
High	92	89
Average	82	79
Low	74	71

<3ヶ月価格見通し> (単位：US/bbl)

	Brent	WTI
High	95	92
Average	85	82
Low	77	74

日付	国	5月経済指標カレンダー	日付	国	5月経済指標カレンダー
1	米	4月ISM製造業景況指数	10	米	4月消費者物価指数
3	米	4月ADP雇用統計	16	欧	1-3月期四半期域内総生産(GDP、改定値)
3	米	4月ISM非製造業景況指数(総合)	16	米	4月小売売上高
3	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利	17	欧	4月消費者物価指数(HICPコア指数、改定値)
3	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見	19	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言
4	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	23	米	4月新築住宅販売件数
4	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	24	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
5	米	4月失業率	25	米	1-3月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
5	米	4月非農業部門雇用者数変化	26	米	4月個人消費支出
5	米	4月平均時給			